



## 電話番号の設定

次の項では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでの Directory Number (DN; 電話番号) に関する作業と設定について説明しています。

- 「電話番号の設定値」(P.43-1)
- 「電話番号と影響を受けるデバイスとの同期化」(P.43-26)
- 「PLAR の設定」(P.43-26)
- 「電話機からの電話番号の削除」(P.43-28)
- 「Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成」(P.43-29)
- 「関連項目」(P.43-30)

## 電話番号の設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] メニュー パスを使用して、Directory Number (DN; 電話番号) を設定します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、特定の電話機に割り当てる電話番号 (DN) の設定および変更を行います。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウを使用して、次の作業を実行します。

- 電話番号の追加または削除。
- 自動転送、コール ピックアップ、コール待機、および Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) オプションの設定。
- 回線からコールが行われるときに着信側電話機に表示されるテキストの指定。
- 呼び出し音の設定。
- Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの設定。

シェアドラインには常に同一の DN 設定が割り当てられます。ただし、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウにある、「デバイス SEPXXXXXXXXXXXX の」という命名規則を含むフィールド セクションは除きます。このようなセクションは、特定のデバイスに対して保持または割り当てられます。デバイスにシェアドラインを追加した場合は、コーリング サーチ スペース、自動転送、コール ピックアップなどの共有 DN 設定が表示されます。これらの DN 設定を変更した場合、新しい設定はすべてのシェアドラインに適用されます。

### 電話番号の設定のヒント

電話番号の設定値を設定するには、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します。これらの設定値は、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] で電話を追加するか、または [デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] で CTI ルートポイントを追加した後で設定できます。

[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] または [デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] で電話番号を設定する場合は、電話機モデルまたは CTI ルートポイントに適用される設定値だけが表示されることに注意してください。[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] で電話番号を設定する場合、一度にすべての電話番号の設定が表示されるとは限りません。たとえば、電話番号を設定してから [保存 (Save)] をクリックすると、さらに設定値が表示されることがあります。



(注)

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウには、電話番号を追加するための代替方法が表示されます。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] メニュー オプションを使用し、新しい電話機を作成するか、または既存の電話機を検索します。新しい電話機を作成するか、または既存の電話機を表示したら、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)] リンクまたは [回線 [2] - 新規 DN を追加 (Line [2] - Add a new DN)] リンクをクリックします。

また、[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] で CTI ルートポイントを設定して、電話番号を CTI ルートポイントに追加することもできます。

電話番号を追加すると同時に、自動転送、コール ピックアップ、および MLPP の各電話機能を設定できます。



ヒント

電話番号にパターン (たとえば 352XX など) を割り当てることができます。電話番号にパターンを割り当てると、ユーザが混乱しないように、電話番号設定フィールド ([回線のテキストラベル (Line Text Label)]、[表示 (Display、内線発信者 ID)]、および [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]) にテキストや数字を追加します (これらのフィールドが特定の電話番号について表示されるのは、電話番号を追加し、さらに、その電話番号を電話機に関連付けた場合だけです)。

たとえば、[回線のテキストラベル (Line Text Label)] と [表示 (Display、内線発信者 ID)] にはユーザの名前を追加し、[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] には外部の回線番号を追加します。このようにすれば、発信情報が表示されるときに、「352XX」ではなく「John Chan」と表示されます。

電話番号を設定する際に、次のトピックも参照できます。

- Private Line Automatic Ringdown (PLAR; 専用回線自動切断) を設定する方法については、「[PLAR の設定 \(P.43-26\)](#)」を参照してください。
- 電話番号と影響を受けるデバイスを同期させる方法については、「[電話番号と影響を受けるデバイスとの同期化 \(P.43-26\)](#)」を参照してください。
- 電話機のリセットについては、「[電話機のリセットのヒント \(P.67-4\)](#)」を参照してください。
- 電話機からの電話番号の削除については、「[電話機からの電話番号の削除 \(P.43-28\)](#)」を参照してください。
- Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成については、「[Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成 \(P.43-29\)](#)」を参照してください。



## ヒント

2 回線で足りない場合は、電話機タイプ（たとえば Cisco IP Phone 7960 など）に対応する電話ボタンテンプレートを変更することによって、回線を増やすことができます。ただし、2 回線までしかサポートしていない電話機タイプ（Cisco IP Phone 7902 など）もあります。



## (注)

デバイスは、速やかに再起動してください。この再起動プロセス中に、ゲートウェイ上のコールがシステムによって終了される場合があります。

## GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、「Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作」(P.1-13) およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

## 設定値表

表 43-1 では、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで使用可能なフィールドについて説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.43-30) を参照してください。

表 43-1 電話番号の設定値

フィールド	説明
<b>[電話番号情報 (Directory Number Information)]</b>	
[電話番号 (Directory Number)]	<p>ダイヤル可能な電話番号を入力します。この値には、ルート パターンのワイルドカードと数字 (0 ~ 9) を指定できます。また、特殊文字として、疑問符 (?)、感嘆符 (!)、バックスラッシュ (\)、角カッコ ([ ])、プラス記号 (+)、ダッシュ (-)、アスタリスク (*)、キャレット (^)、シャープ記号 (#)、および X なども指定できます。ただし、特殊文字のうち、ピリオド (.)、アットマーク (@)、ドル記号 (\$)、およびパーセント記号 (%) は指定できません。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + を使用する場合は、パターンの先頭に ¥+ を入力します。このフィールドでは、¥+ はワイルドカードではなく、ダイヤル可能な数字を表します。</p> <p><b>(注)</b> 電話番号としてパターンが使用されている場合、電話機の表示、およびダイヤルされた電話機への発信者 ID の表示には、数字以外の文字が含まれます。このような表示を避けるために、[表示 (Display、内線発信者 ID)]、[回線のテキストラベル (Line Text Label)]、および [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] に値を入力することをお勧めします。</p> <p>入力する電話番号が、複数のパーティションに表示される場合があります。</p> <p>[コールルーティング (Call Routing)] &gt; [電話番号 (Directory Number)] でこのフィールドを設定する場合、範囲（つまり、最初のフィールドに電話番号の先頭、2 番目のフィールドに電話番号の末尾）を入力して、電話番号をまとめて入力または挿入できます。この方法を使用すると、一度に最大 500 個の電話番号を作成できます。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートパーティション (Route Partition)]	<p>この電話番号が属するパーティションを選択します。[電話番号 (Directory Number)] フィールドに入力する電話番号が、選択したパーティション内で固有のものであることを確認してください。電話番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [&lt;なし (None)&gt;] を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウンリスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウンリスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。「パーティションの検索 (パーティションが多数ある場合)」(P.40-4) の手順に従って、パーティション名を検索し、選択します。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] &gt; [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[説明 (Description)]	<p>電話番号とルート パターンの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&amp;)、または山カッコ (&lt;&gt;) は使用できません。</p>
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	<p>呼び出し先の電話が鳴ったときに発信者の電話に表示する名前を入力します。</p> <p>この設定は QSIG プロトコルの Identification Service をサポートし、共有および非共有の電話番号に適用されます。着側 PINX で電話機の呼び出し音が鳴ったときに、シェアドライン アピランスを持つ電話番号に呼び出し表示を設定した場合、次の作業が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>着信側の呼び出し表示を発信者に転送するように設定されている場合は、そのとおりに転送されます。</li> <li>トランスレーション パターンに設定されている Connected Name Restrictions (CONR) を適用します (制限が存在する場合)。</li> </ul> <p>コールおよび設定の状態に応じて、呼び出し表示、電話番号、または表示 (内線発信者 ID) 設定が次のように電話に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アラート状態: [電話番号 (Directory Number)] ウィンドウに設定されたとおりに呼び出し表示が表示されます。</li> <li>接続状態: [表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドおよび [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドを設定すると、表示 (内線発信者 ID) 名が表示されます。</li> <li>接続状態: [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドは設定したものの、[表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドは設定しなかった場合は、電話番号が表示されます。</li> </ul> <p>Always Display Original Dialed Number サービス パラメータを [True] に設定すると、呼び出し表示機能に大きな影響を与えます。サービス パラメータを [True] に設定した場合は、コール時に最初にダイヤルされた番号および呼び出し表示が表示されます。</p>
[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]	<p>このフィールドには、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] フィールドの内容が表示されます。</p>
[アクティブ (Active)]	<p>[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウにこのチェックボックスを表示するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウから、割り当てられていない電話番号にアクセスします。このチェックボックスをオンにすると、この電話番号へのコールを自動転送できるようになります (自動転送が設定されている場合)。このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified Communications Manager はその電話番号を無視します。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、CTI から、この電話番号が関連付けられたデバイスの回線を制御および監視できます。</p> <p>電話番号がシェアドラインを指定している場合、関連付けられたデバイスの少なくとも 1 つが、CTI でサポートされるデバイス タイプおよびプロトコルの組み合わせを指定しているときは、チェックボックスがオンになっていることを確認します。</p>
[回線グループ (Line Group)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスから、この DN を関連付ける回線グループを選択します。</p> <p>回線グループの回線グループ情報を編集または表示するには、ドロップダウン リスト ボックスから回線グループを選択し、[回線グループの編集 (Edit Line Group)] ボタンをクリックします。回線グループの設定の詳細については、「回線グループの設定」(P.34-1) を参照してください。</p> <p><b>(注)</b> DN を回線グループの一部として設定した場合、その DN を CTI ポートまたは CTI ルートポイントに関連付けることはできません。逆に、CTI ポートまたは CTI ルートポイントを設定した場合、すでに回線グループまたはハントリストに属している DN は指定できません。さらに、DN が回線グループまたはハントリストのメンバーである場合、その DN を使用するデバイス (CTI ポート、CTI ルートポイント、SCCP を実行している電話機、または SIP を実行している電話機) は、CTI ユーザに関連付けないでください。</p>
[デバイスの関連付け (Associated Devices)]	<p>この DN をデバイスに関連付けると、この DN が関連付けられたデバイスがこのペインに表示されます。</p> <p>この DN が関連付けられたデバイスを編集するには、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインでデバイス名を選択し、[デバイスの編集 (Edit Device)] ボタンをクリックします。選択したデバイスの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウまたは [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。電話機またはデバイス プロファイルの設定の詳細については、「Cisco Unified IP Phone の設定」の章または「デバイス プロファイルの設定」の章を参照してください。</p> <p>この DN に対して定義されたライン アピアランスを編集するには、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインでデバイス名を選択し、[ラインアピアランスの編集 (Edit Line Appearance)] ボタンをクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウまたは [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウが更新され、選択したデバイスについて、この DN のライン アピアランスが表示されます。</p> <p>[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)] ペインのデバイス リストからこの DN にデバイスを関連付けるには、[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)] ペインでデバイスを選択し、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインに追加します。追加するには、この 2 つのペイン間にある上矢印をクリックします。</p>
[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)]	<p>DN とデバイスの関連付けを解除する場合、この DN の関連付けを解除するデバイスがこのペインに表示されます。</p> <p>[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインでデバイスを選択し、[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)] ペインに追加します。追加するには、この 2 つのペイン間にある下矢印をクリックします。</p>
<b>[電話番号の設定 (Directory Number Settings)]</b>	
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	<p>[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] に定義されているボイスメール プロファイルのリストから選択します。</p> <p>最初のオプションは、[&lt;なし (None)&gt;] で、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] で設定された現在のデフォルト ボイスメール プロファイルを表しています。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。選択された値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。電話番号のコーリング サーチ スペースの設定情報については、「<a href="#">[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]</a>」(P.43-25) を参照してください。</p> <p>このフィールドに変更を加えると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドにリストされている番号が更新されます。</p> <p>コーリング サーチ スペースは、不在転送、話中転送、無応答時転送、カバレッジなし時転送、および CTI 障害時転送の電話番号に対して設定できます。選択された値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</p> <p>不在転送を正しく動作させるには、不在転送のプライマリ コーリング サーチ スペースまたは不在転送のセカンダリ コーリング サーチ スペースの一方または両方を設定する必要があります。システムはこれらの連結フィールド (プライマリ CFA CSS + セカンダリ CFA CSS) を使用して、CFA 転送先を確認し、その CFA 転送先にコールを転送します。</p> <p><b>(注)</b> システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されている場合は、他の自動転送のコーリング サーチ スペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリング サーチ スペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリング サーチ スペースが [なし (None)] の場合、システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、話中転送の転送先を設定した場合は、話中転送のコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。話中転送のコーリング サーチ スペースが設定されていない場合、話中転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>電話機の [不在] ソフトキーを使用してコールを自動転送する場合、回線 CSS とデバイス CSS の自動的な連結は使用されません。設定されたプライマリ CFA CSS とセカンダリ CFA CSS だけが使用されます。これらのフィールドがどちらも [なし (None)] の場合、連結によって 2 つのヌルパーティションが生じます。その結果、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>ユーザが電話機上でコールを自動転送するのを制限する場合は、不在転送のコーリングサーチスペースのフィールドから、限定的なコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「<a href="#">パーティションおよびコーリング サーチ スペース</a>」を参照してください。</p>
[ プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、この電話番号のプレゼンス グループを選択します。選択されたグループでは、この電話番号を監視できるデバイス、エンドユーザ、およびアプリケーション ユーザが指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された標準のプレゼンス グループです。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス許可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「<a href="#">プレゼンス</a>」の章を参照してください。</p>
[ ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	<p>ユーザが保留操作を開始したときに再生されるオーディオ ソースを選択します。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	ネットワークが保留操作を開始したときに再生されるオーディオ ソースを選択します。
[自動応答 (Auto Answer)]	次のいずれかを選択し、この電話番号の自動応答機能をアクティブにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[自動応答オフ (Auto Answer Off)] (デフォルト)</li> <li>[ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)]</li> <li>[スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)]</li> </ul> <p>(注) [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] または [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] を選択する場合は、ヘッドセットまたはスピーカフォンが使用可能であることを確認します。</p> <p>(注) シェアドラインを持つデバイスには自動応答を設定しないでください。</p>
<b>[AAR 設定 (AAR Settings)]</b>	
[AAR] ([ボイスメール (Voice Mail)], [AAR 接続先マスク (AAR Destination Mask)], [AAR グループ (AAR Group)])	この一連のフィールド内の設定値は、帯域幅不足により宛先に到達できない場合のコールの処理を指定します。Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) は、AAR 接続先マスクまたはボイスメールにルーティングされるコールを処理します。 <p>次の値のいずれかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、カバレッジまたは接続先のボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> </li> <li>[AAR 接続先マスク (AAR Destination Mask)] : ダイヤルされる AAR 接続先を指定するには、外部電話番号マスクの代わりにこの設定値を使用します。</li> <li>[AAR グループ (AAR Group)] : この設定値は、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を指定します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</li> </ul>
[この接続先を不在転送履歴に保持する (Retain this destination in the call forwarding history)]	この設定は、コールの AAR レッグを不在転送履歴に記録するかどうかを決定します。チェックボックスをオフにすると、コールの AAR レッグは不在転送履歴に記録されません。チェックボックスをオンにすると、コールの AAR レッグは不在転送履歴に記録されます。 <p>デフォルトでは、電話番号設定により、コールの AAR レッグは不在転送履歴に保持されます。そのため、ボイス メッセージ システムへの AAR 転送が行われると、ユーザはボイス メッセージを残すように要求されます。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)]</b>	
[ コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)]	<p>このオプションには、3 つの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ システムデフォルトの使用 (Use System Default)]</li> <li>• [ 設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)]</li> <li>• [ デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)]</li> </ul> <p>[ 設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] オプションを選択すると、[ 電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで明示的に設定した不在転送のコーリングサーチスペースによって、不在転送のアクティブ化と自動転送が制御されます。不在転送のコーリングサーチスペースが [ なし (None)] に設定されている場合、不在転送用の CSS は設定されません。パーティションが設定されている電話番号への不在転送のアクティブ化は失敗します。不在転送がアクティブな間、不在転送のコーリングサーチスペースおよび不在転送のセカンダリコーリングサーチスペースは変更されません。</p> <p>不在転送のコーリングサーチスペースを明示的に設定しないで、電話番号のコーリングサーチスペースとデバイスのコーリングサーチスペースの組み合わせを使用するには、[ コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] で [ デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] を選択します。電話機から不在転送をアクティブ化するときにこのオプションを使用すると、電話番号のコーリングサーチスペースと、アクティブ化デバイスのデバイスのコーリングサーチスペースが、自動的に不在転送のコーリングサーチスペース、および不在転送の二次コーリングサーチスペースに読み込まれます。</p> <p>この設定 ([ コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] を [ デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] に設定) で、不在転送のコーリングサーチスペースが [ なし (None)] に設定されている場合に、電話機から不在転送をアクティブ化すると、電話番号のコーリングサーチスペースとアクティブ化デバイスのコーリングサーチスペースの組み合わせを使用して、不在転送の試行の確認が行われます。</p> <p>[ コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] を [ システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定した場合は、クラスタ全体のサービスパラメータである CFA CSS Activation Policy によって、使用される不在転送のコーリングサーチスペースが決まります。CFA CSS Activation Policy サービスパラメータが [ 設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] に設定されている場合は、不在転送のコーリングサーチスペースと不在転送の二次コーリングサーチスペースが不在転送に使用されます。CFA CSS Activation Policy サービスパラメータが [ デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] に設定されている場合は、電話番号のコーリングサーチスペースとアクティブ化デバイスのデバイスコーリングサーチスペースが、自動的に不在転送のコーリングサーチスペースと、不在転送の二次コーリングサーチスペースに読み込まれます。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
	<p><b>CFA CSS Activation Policy サービス パラメータ</b></p> <p>不在転送が意図したとおりに動作するよう、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [Clusterwide パラメータ (機能 - 転送) (Clusterwide Parameters (Feature - Forward))] セクションに表示される CFA CSS Activation Policy サービス パラメータが正しく設定されていることを確認してください。このパラメータには、2 つの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] (デフォルト)</li> <li>• [デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)]</li> </ul> <p>[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] を [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定した場合は、CFA CSS Activation Policy サービス パラメータの値を使用して、不在転送 CSS が決定されます。</p> <p>[設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] オプションが選択されている場合は、不在転送のプライマリおよびセカンダリ コーリング サーチ スペースが使用されます。[デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] オプションが選択されている場合は、プライマリ回線のコーリング サーチ スペースとアクティブ化デバイスのコーリング サーチ スペースで、不在転送のプライマリおよびセカンダリ コーリング サーチ スペースが更新されます。</p> <p>デフォルトでは、CFA CSS Activation Policy サービス パラメータは [設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] に設定されています。</p> <p>サービス パラメータへのアクセスおよび設定については、「<a href="#">サービス パラメータの設定</a>」を参照してください。</p> <p><b>ローミング</b></p> <p>同じデバイス モビリティ グループでデバイスをローミングしている場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス モビリティの CSS を使用して、ローカル ゲートウェイに接続します。ユーザが電話に不在転送を設定し、CFA CSS が [なし (None)] に設定されていて、CFA CSS アクティベーション ポリシーが [デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] に設定されている場合、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• デバイスがホーム ロケーションにある場合、CFA CSS として、デバイスの CSS と回線の CSS が使用されます。</li> <li>• デバイスが同じデバイス モビリティ グループ内でローミングされている場合、CFA CSS として、ローミング デバイス プールからのデバイス モビリティの CSS と回線の CSS が使用されます。</li> <li>• デバイスが異なるデバイス モビリティ グループ内でローミングしている場合、CFA CSS として、デバイスの CSS と回線の CSS が使用されます。</li> </ul>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[不在転送 (Forward All)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がコールをすべて自動転送するように設定されている場合、この電話番号へのコールの自動転送処理を指定します。ユーザが電話機から [不在転送 (Forward All)] をアクティブにすると、入力された [不在転送 (Forward All)] の転送先を検証するために、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。このフィールドは、コールを [不在転送 (Forward All)] の転送先にリダイレクトするときにも使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p><b>(注)</b> このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[接続先 (Destination)] : この設定値は、すべてのコールの自動転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> <li>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul>
[不在転送の二次コーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)]	<p>自動転送は回線ベースの機能であるため、デバイスのコーリングサーチスペースが不明の場合、システムはコールを転送するときに、回線のコーリングサーチスペースだけを使用します。回線のコーリングサーチスペースが限定的であり、ルーティング可能でない場合、転送は失敗します。</p> <p>不在転送のセカンダリコーリングサーチスペースを追加すると、転送が可能なソリューションが得られます。不在転送のプライマリコーリングサーチスペースと不在転送のセカンダリコーリングサーチスペースは連結されます (プライマリ CFA CSS + セカンダリ CFA CSS)。Cisco Unified Communications Manager は、この連結を使用して、CFA 転送先を検証し、コールを転送します。</p> <p>連結されたプライマリ CFA CSS とセカンダリ CFA CSS がどのように機能するかについては、[<a href="#">コーリングサーチスペース (Calling Search Space)</a>] (P.43-6) の説明を参照してください。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 話中転送 (Forward Busy Internal、内部) ]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がビジー状態の場合の、この電話番号への内部コールの自動転送処理を指定します。回線がビジー状態と見なされる条件については、「[ <b>ビジートリガー (Busy Trigger)</b> ]」 (P.43-24) を参照してください。コールを自動転送先にリダイレクトするときは、自動転送先と [ <b>コーリングサーチスペース (Calling Search Space)</b> ] フィールドが使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ <b>ボイスメール (Voice Mail)</b> ] : 内部コールで [ <b>ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)</b> ] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p>(注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified Communications Manager は、[ <b>接続先 (Destination)</b> ] ボックスと [ <b>コーリングサーチスペース (Calling Search Space)</b> ] の設定値を無視します。</p> <p>(注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ <b>ボイスメール (Voice Mail)</b> ] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ <b>ボイスメール (Voice Mail)</b> ] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ <b>接続先 (Destination)</b> ] : この設定値は、内部コールの話中転送の転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p>(注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [ <b>接続先 (Destination)</b> ] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [ <b>接続先 (Destination)</b> ] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ <b>コーリングサーチスペース (Calling Search Space)</b> ] : 話中転送 (内部) のコーリングサーチスペースは、コールが [ <b>話中転送 (Forward Busy Internal、内部)</b> ] の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p>(注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、自動転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリングサーチスペースが [ <b>なし (None)</b> ] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、話中転送の転送先を設定した場合は、話中転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。話中転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、話中転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>(注) 内部コールに対して [ <b>コーリングサーチスペース (Calling Search Space)</b> ] を選択した場合、システムにより外部コールの [ <b>コーリングサーチスペース (Calling Search Space)</b> ] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを自動転送する場合は、[ <b>コーリングサーチスペース (Calling Search Space)</b> ] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 話中転送 (Forward Busy External、外部) ]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がビジュー状態の場合の、この電話番号への外部コールの自動転送処理を指定します。回線がビジュー状態と見なされる条件については、「[ <b>ビジュートリガー (Busy Trigger)</b> ]」 (P.43-24) を参照してください。コールを自動転送先にリダイレクトするときは、自動転送先と [ <b>コーリングサーチスペース (Calling Search Space)</b> ] フィールドが使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ <b>ボイスメール (Voice Mail)</b> ] : 外部コールで [ <b>ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)</b> ] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p>(注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified Communications Manager は、[ <b>接続先 (Destination)</b> ] ボックスと [ <b>コーリングサーチスペース (Calling Search Space)</b> ] の設定値を無視します。</p> <p>(注) 内部コールに対して [ <b>ボイスメール (Voice Mail)</b> ] チェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ <b>ボイスメール (Voice Mail)</b> ] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ <b>ボイスメール (Voice Mail)</b> ] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ <b>接続先 (Destination)</b> ] : この設定値は、外部コールの話中転送の転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p>(注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [ <b>接続先 (Destination)</b> ] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [ <b>接続先 (Destination)</b> ] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ <b>コーリングサーチスペース (Calling Search Space)</b> ] : 話中転送 (外部) のコーリングサーチスペースは、コールが [ <b>話中転送 (Forward Busy External、外部)</b> ] の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p>(注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、自動転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリングサーチスペースが [ <b>なし (None)</b> ] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、話中転送の転送先を設定した場合は、話中転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。話中転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、話中転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>(注) 内部コールに対して [ <b>コーリングサーチスペース (Calling Search Space)</b> ] を選択した場合、システムにより外部コールの [ <b>コーリングサーチスペース (Calling Search Space)</b> ] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを自動転送する場合は、[ <b>コーリングサーチスペース (Calling Search Space)</b> ] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部) ]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号が応答しない場合の、この電話番号への内部コールの自動転送処理を指定します。コールを自動転送先にリダイレクトするときは、自動転送先と [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ ボイスメール (Voice Mail) ] : [ ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration) ] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p>(注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified Communications Manager は、[ 接続先 (Destination) ] ボックスと [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] の設定値を無視します。</p> <p>(注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ ボイスメール (Voice Mail) ] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ ボイスメール (Voice Mail) ] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 接続先 (Destination) ] : この設定値は、コールに応答がないときに、内部コールの自動転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p>(注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [ 接続先 (Destination) ] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [ 接続先 (Destination) ] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] : 無応答時転送 (内部) のコーリングサーチスペースは、コールが無応答時転送 (内部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p>(注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、自動転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリングサーチスペースが [ なし (None) ] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、無応答時転送の転送先を設定した場合は、無応答時転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。無応答時転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、無応答時転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>(注) 内部コールに対して [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] を選択した場合、システムにより外部コールの [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 無応答時転送 (Forward No Answer External、外部) ]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号が応答しない場合の、この電話番号への外部コールの自動転送処理を指定します。コールを自動転送先にリダイレクトするときは、自動転送先と [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ ボイスメール (Voice Mail) ] : [ ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration) ] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p>(注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified Communications Manager は、[ 接続先 (Destination) ] ボックスと [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] の設定値を無視します。</p> <p>(注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ ボイスメール (Voice Mail) ] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ ボイスメール (Voice Mail) ] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 接続先 (Destination) ] : この設定値は、コールに応答がないときに、外部コールの自動転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p>(注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [ 接続先 (Destination) ] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [ 接続先 (Destination) ] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] : 無応答時転送 (外部) のコーリングサーチスペースは、コールが無応答時転送 (外部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p>(注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、自動転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリングサーチスペースが [ なし (None) ] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、無応答時転送の転送先を設定した場合は、無応答時転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。無応答時転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、無応答時転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>(注) 内部コールに対して [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] を選択した場合、システムにより外部コールの [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)]	<p>コール カバレッジの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「コール カバレッジ」を参照してください。</p> <p>コールを自動転送先にリダイレクトするときは、自動転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p><b>(注)</b> このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイス メッセージ システムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[接続先 (Destination)] : この設定値は、内部無接続コールの自動転送先の電話番号を指定します (該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p><b>(注)</b> 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : カバレッジなし時転送 (内部) のコーリング サーチ スペースは、コールがカバレッジなし時転送 (内部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p><b>(注)</b> システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されている場合は、自動転送のコーリング サーチ スペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリング サーチ スペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリング サーチ スペースが [なし (None)] の場合、システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、カバレッジなし時転送の転送先を設定した場合は、カバレッジなし時転送のコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。カバレッジなし時転送のコーリング サーチ スペースが設定されていない場合、カバレッジなし時転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p><b>(注)</b> 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリング サーチ スペースに外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)]	<p>コール カバレッジの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「<a href="#">コール カバレッジ</a>」を参照してください。</p> <p>コールを自動転送先にリダイレクトするときは、自動転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p>(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイス メッセージ システムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[接続先 (Destination)] : この設定値は、内部無接続コールの転送先の電話番号を指定します (該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p>(注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : カバレッジなし時転送 (外部) のコーリングサーチスペースは、コールがカバレッジなし時転送 (外部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p>(注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、自動転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリングサーチスペースが [なし (None)] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、カバレッジなし時転送の転送先を設定した場合は、カバレッジなし時転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。カバレッジなし時転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、カバレッジなし時転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>(注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)]	<p>このフィールドは、CTI ルート ポイントおよび CTI ポートだけに適用されます。この行の設定値は、CTI ルート ポイントまたは CTI ポートが失敗した場合の、この CTI ルート ポイントまたは CTI ポートへの外部コールの自動転送処理を指定します。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p>(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[接続先 (Destination)] : この設定値は、内部無接続コールの自動転送先の電話番号を指定します (該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> <li>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul>
[未登録内線の不在転送 (Forward Unregistered Internal)]	<p>このフィールドは、未登録の内線 DN コールに適用されます。このコールは、指定された宛先番号またはボイスメールに再ルーティングされます。</p> <p>(注) [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで、特定の電話番号に対して転送回数の最大値を指定する必要もあります。「<a href="#">サービスパラメータの設定 (P.22-1)</a>」を参照してください。</p>
[未登録外線の不在転送 (Forward Unregistered External)]	<p>このフィールドは、未登録の外線 DN コールに適用されます。このコールは、指定された宛先番号またはボイスメールに再ルーティングされます。</p> <p>(注) [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで、特定の電話番号に対して転送回数の最大値を指定する必要もあります。「<a href="#">サービスパラメータの設定 (P.22-1)</a>」を参照してください。</p>
[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)]	<p>このフィールドは無応答時転送の転送先設定と併用し、電話機で呼び出し音が鳴ってから転送が開始されるまでの時間を示すタイマーを設定します。この設定をブランクのままにすると、Cisco CallManager サービスパラメータの Forward No Answer Timer に設定された値が使用されます。</p> <p> <b>注意</b> デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager は、[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)] の時間よりも T301 タイマーの時間を長くします。T301 タイマーの設定時間が [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)] よりも先に時間切れになった場合は、コールが終了し、自動転送が行われません。この動作を選択する場合は、[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)] の時間を T301 タイマーよりも大きくするように設定できます。T301 タイマーについては、[システム (System)] &gt; [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択し、表示されたウィンドウで、サーバ、Cisco CallManager サービス、およびパラメータを選択します。</p>
[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]	<p>(指定されたパーティション内で) この電話番号へのコールに応答するために、ダイヤル可能な番号を選択します。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[パークモニタリング (Park Monitoring)]</b>	
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(外部)(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)]	<p>パークされた発信側が外部のユーザである場合、コールはこのフィールドに指定した宛先に自動転送されます。このフィールド値が空である場合、パークされた発信側はパーク元の回線にリダイレクトされます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p>(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[接続先 (Destination)] : サービスパラメータ Park Monitoring Forward No Retrieve Timer の期限が切れたときに、(外部のユーザから) パークされたコールが転送される電話番号です。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> <li>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : コーリングサーチスペースは、通常はデバイスに割り当てられているルートパーティションの順序リストで構成されます。コーリングサーチスペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。</li> </ul>
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(内部)(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)]	<p>パークされた発信側が内部のユーザである場合、コールはこのフィールドに指定した宛先に自動転送されます。このフィールド値が空である場合、パークされた発信側はパーク元の回線にリダイレクトされます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p>(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[接続先 (Destination)] : サービスパラメータ Park Monitoring Forward No Retrieve Timer の期限が切れたときに、(内部のユーザから) パークされたコールが転送される電話番号です。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> <li>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : コーリングサーチスペースは、通常はデバイスに割り当てられているルートパーティションの順序リストで構成されます。コーリングサーチスペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。</li> </ul>
[パークモニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)]	<p>このパラメータによって、Cisco Unified Communications Manager がユーザにパークしたコールの取得を求めるまでに待機する秒数が決まります。このタイマーはユーザが電話の [パーク] ソフトキーを押すと起動し、タイマーの期限が切れるとリマインダが発行されます。</p> <p>デフォルトは 60 秒です。</p> <p>(注) ゼロ以外の値を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウに設定されているパラメータの値がこの値で上書きされます。一方、ここに 0 を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[MLPP 代替パーティの設定 (MLPP Alternate Party Settings)]</b>	
[転送先 (Target、接続先)]	この電話番号が優先コールを受信し、この番号とそのコール転送先が優先コールに回答しない場合に MLPP 優先コールが転送される番号を入力します。  この値には、数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を指定できます。
[MLPP コーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、MLPP 代替パーティのターゲット (宛先) 番号に関連付けられたコーリングサーチスペースを選択します。電話番号のコーリングサーチスペースの設定情報については、「 <a href="#">[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] (P.43-25)</a> 」を参照してください。
[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration、秒)]	秒数 (4 ~ 60) を指定します。この電話番号とその自動転送先が MLPP 優先コールに回答しない場合、ここで指定した秒数が経過すると、MLPP 優先コールがこの電話番号の代替パーティに誘導されます。  この設定を空白のままにすると、Cisco Unified Communications Manager エンタープライズパラメータの Precedence Alternate Party Timeout に設定された値が使用されます。
<b>[すべてのデバイスの回線設定 (Line Settings for All Devices)]</b>	
[保留復帰の呼び出し時間 (Hold Reversion Ring Duration、秒)]	0 ~ 1200 の数値を入力して、保留している相手の電話機に復帰コールアラートを発行するまでの秒数を指定します。  値 0 を入力した場合、Cisco Unified Communications Manager は、保留されたコールに対して復帰コール機能を起動しません。  インストールの時点では、このフィールドは空白のままです。この設定を空白のままにすると、クラスタの保留復帰の呼び出し時間タイマー設定が適用されます。
[保留復帰の通知間隔 (Hold Reversion Notification Interval、秒)]	0 ~ 1200 の数値を入力して、保留している相手の電話機に定期的な注意アラートを送信する間隔の秒数を指定します。  値 0 を入力した場合、Cisco Unified Communications Manager は、注意アラートを送信しません。  インストールの時点では、このフィールドは空白のままです。この設定を空白のままにすると、クラスタの保留復帰の通知間隔タイマー設定が適用されます。
[パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)]	[パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>[デフォルト (Default)] : Party Entrance Tone サービスパラメータに設定された値を使用します。</li> <li>[オン (On)] : 基本的なコールがマルチパーティコール (割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、またはコールへの参加) に変更されるときにトーンが電話機で再生されます。また、参加者がマルチパーティコールを終了するときには別のトーンが再生されます。制御するデバイス、つまり、マルチパーティコールの発信元にビルトインブリッジが含まれている場合に、制御するデバイスで [オン (On)] を選択するとすべての参加者にトーンが再生されます。制御するデバイスがコールを終了するとき、Cisco Unified Communications Manager はコールに参加している別のデバイスがトーンを再生できるかどうかを識別します。コールに参加している別のデバイスがトーンを再生できる場合、Cisco Unified Communications Manager はトーンを再生します。制御するデバイスがトーンを再生できない場合、パーティ参加トーン機能を有効にしても Cisco Unified Communications Manager はトーンを再生しません。</li> <li>[オフ (Off)] : 基本的なコールがマルチパーティコールに変更されるときにトーンが電話機で再生されません。</li> </ul>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[デバイス&lt;デバイス名&gt;の回線&lt;n&gt;(Line [number] on Device [device name])]</b>	
<b>(注)</b> これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合だけです。	
[表示 (Display、内線発信者 ID)]	<p>着側に表示されるテキスト。このフィールドをブランクのままにすると、内線番号が表示されます。最長 30 文字の英数字を使用してください。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。通常、ユーザ名または電話番号を使用します。電話番号を使用した場合、コールを受信した人は発信者の固有 ID を見ることができない場合があります。</p> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p>
[ASCII 表示 (ASCII Display、内線発信者 ID)]	<p>このフィールドには、[表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 表示 (ASCII Display、内線発信者 ID)] フィールドの内容が表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p>
[回線のテキストラベル (Line Text Label)]	<p>このフィールドは、ライン アピアランスに電話番号を示さないようにする場合に限り使用します。回線/電話機の組み合わせに対し電話番号を識別するテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p>複数の電話番号をモニタする秘書や担当者がそれらの電話番号を識別できるように、所属長の氏名、部門名、または他の適切な情報の入力をお勧めします。</p> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p>
[ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)]	<p>このフィールドには、[回線のテキストラベル (Line Text Label)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)] フィールドの内容が表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>この回線からのコールの発信時に発信者 ID 情報の送信に使用される電話番号 (またはマスク) を指定します。</p> <p>最長 24 桁の数字、国際的なエスケープ文字 +、および「X」文字を入力できます。X は、電話番号を表し、パターン末尾に指定する必要があります。たとえば、マスクを 972813XXXX に指定する場合、内線番号 1234 からの外部コールには、発信者 ID が「9728131234」と表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p>
[視覚的なメッセージ受信インジケータのポリシー (Visual Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドでは、受話器のランプの点灯に関するポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[システムポリシーの使用 (Use System Policy)] (電話番号は、サービス パラメータ「Message Waiting Lamp Policy」の設定を参照)</li> <li>[ライトとプロンプト (Light and Prompt)]</li> <li>[プロンプトのみ (Prompt Only)]</li> <li>[ライトのみ (Light Only)]</li> <li>[なし (None)]</li> </ul> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p>
[オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドでは、音声によるメッセージ受信インジケータに関するポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[オフ (Off)]</li> <li>[オン (On)] : このオプションを選択した場合、受話器をオフフックにすると、スタッターダイヤルトーンが聞こえます。</li> <li>[デフォルト (Default)] : このオプションを選択すると、電話機は、システムレベルで設定されたデフォルトを使用します。</li> </ul>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>このフィールドでは、着信コールが受信され、そのデバイスにそれ以外のアクティブなコールがない場合に、ラインアピランスに対する呼び出し音設定値を設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [システムデフォルトの使用 (Use System Default)]</li> <li>• [無効 (Disable)]</li> <li>• [フラッシュのみ (Flash Only)]</li> <li>• [一度鳴らす (Ring Once)]</li> <li>• [鳴らす (Ring)]</li> </ul> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p> <p><b>(注)</b> エンタープライズパラメータ、デバイスプール、またはデバイスレベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の出音設定が動作しません。</p>
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアクティブのとき)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、この電話機で別回線に別のアクティブなコールがある場合に使用する呼び出し音設定値を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [システムデフォルトの使用 (Use System Default)]</li> <li>• [無効 (Disable)]</li> <li>• [フラッシュのみ (Flash Only)]</li> <li>• [一度鳴らす (Ring Once)]</li> <li>• [鳴らす (Ring)]</li> <li>• [ビーブ音のみ (Beep Only)]</li> </ul> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p> <p><b>(注)</b> エンタープライズパラメータ、デバイスプール、またはデバイスレベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の出音設定が動作しません。</p>
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>このフィールドは、着信コールによってコールピックアップグループのメンバに送信される通知の種類を決定します。着信した電話機で応答がない場合、コールピックアップグループにあるアイドル状態の電話機で、短い呼び出し音を鳴らす ([一度鳴らす (Ring Once)]) か、何も鳴らさない ([無効 (Disable)]) かを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービスパラメータの Call Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station の設定によって決まります。</li> <li>• [無効 (Disable)] : コールピックアップグループのメンバにアラートを送信しません。</li> <li>• [一度鳴らす (Ring Once)] : コールピックアップグループのメンバに短い呼び出し音を送信します。</li> </ul>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting、電話がアクティブのとき)]	<p>このフィールドは、着信コールによってコールピックアップグループのメンバに送信される通知の種類を決定します。着信した電話機で応答がない場合、コールピックアップグループにあるビジー状態の電話機で、ピープ音を鳴らす ([ピープ音のみ (Beep Only)]) か、何も鳴らさない ([無効 (Disabled)]) かを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービスパラメータの Call Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station の設定によって決まります。</li> <li>• [無効 (Disable)] : コールピックアップグループのメンバにアラートを送信しません。</li> <li>• [ピープ音のみ (Beep Only)] : コールピックアップグループのメンバにピープ音を送信します。</li> </ul>
[録音オプション (Recording Option)]	<p>このフィールドは、エージェントのラインアピアランスでの録音オプションを決定します。デフォルトでは、録音オプションに [コール録音が無効 (Call Recording Disabled)] が指定されています。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コール録音が無効 (Call Recording Disabled)] : このラインアピアランスでエージェントが作成したコールは録音されません。</li> <li>• [自動コール録音が有効 (Automatic Call Recording Enabled)] : このラインアピアランスでエージェントが作成したコールは自動的に録音されます。</li> <li>• [アプリケーションから呼び出されたコール録音が有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] : このラインアピアランスでエージェントが作成したコールは、アプリケーションがコール録音を呼び出した場合に録音されます。</li> <li>• [デバイスから呼び出されたコール録音が有効 (Device Invoked Call Recording Enabled)] : このオプションは、外部コール制御機能をサポートします。ポリシーサーバ上のポリシーで、監察者によるコールの監視と録音が必要であることが規定されている場合は、このオプションを選択します。</li> </ul> <p>録音オプションが [自動コール録音が有効 (Automatic Call Recording Enabled)] または [アプリケーションから呼び出されたコール録音が有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] に設定されている場合、ラインアピアランスを録音プロファイルに関連付けることができます。</p> <p>自動録音が有効な場合、アプリケーションの録音要求は拒否されます。</p>
[録音プロファイル (Recording Profile)]	<p>このフィールドは、エージェントのラインアピアランスでの録音プロファイルを決定します。ドロップダウンリストボックスから、既存の録音プロファイルを選択します。録音プロファイルを作成するには、[デバイス (Device)] &gt; [デバイスの設定 (Device Settings)] &gt; [録音プロファイル (Recording Profile)] メニューオプションを使用します。</p> <p>デフォルト値は、[なし (None)] です。</p>
[モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space)]	<p>エージェントを監視できるようにするには、スーパーバイザのラインアピアランスのモニタリング用コーリングサーチスペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含める必要があります。</p> <p>スーパーバイザのラインアピアランスウィンドウで、モニタリング用コーリングサーチスペースを設定します。ドロップダウンリストボックスから、既存のコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>デフォルト値は、[なし (None)] です。</p>

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 不在着信のログ (Log Missed Calls)]	このチェックボックスがオンになっている (この設定のデフォルト値) 場合、Cisco Unified Communications Manager は電話機のシェアドライン アピアランスの不在転送履歴に不在着信を記録します。このチェックボックスをオフにすると、不在着信はシェアドライン アピアランスに記録されません。
<b>[ デバイス&lt;デバイス名&gt;の複数コール/コール待機設定 (Multiple Call/Call Waiting Settings on Device [device name]) ]</b>	
<b>(注)</b> これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合だけです。	
[ コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	<p>デバイスの回線に最大 200 コールを設定できます。デバイスに設定されるコールの合計数が、この制限要因になります。ある回線に対してコールの数を設定すると、別の回線で利用できるコールの数はそれだけ少なくなります。</p> <p>デフォルト値は 4 コールです。電話機が各回線に複数のコールを設定できない場合、デフォルト値は 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントの場合、各ポートに最大 10,000 コールを設定できます。デフォルト値は 5000 コールです。このフィールドは、[ ビジートリガー (Busy Trigger) ] フィールドと併用します。</p> <p><b>(注)</b> デフォルトでは、CTI ルート ポイントに設定可能なアクティブ コールの最大数は 5000 コールになっていますが、シスコでは、コールの最大数をルート ポイントあたり 200 以下に設定することをお勧めします。この設定により、システム パフォーマンスの低下を防ぐことができます。CTI アプリケーションで 200 を超えるコールが必要な場合は、複数の CTI ルート ポイントを設定することをお勧めします。</p> <p><b>ヒント</b> 外部コール制御機能を使用し、ポリシー サーバ上のポリシーで監察者によるコールの監視と録音が必要であると規定されている場合は、[ コール最大数 (Maximum Number of Calls)] を 2 に設定し、[ ビジートリガー (Busy Trigger) ] を 1 に設定していることを確認してください。</p> <p><b>ヒント</b> シェアドライン アピアランスを持つデバイスに対して、この設定がどのように機能するかを確認するには、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「<a href="#">シェアドライン アピアランス</a>」を参照してください。</p>
[ ビジートリガー (Busy Trigger)]	<p>この設定は、[ コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および話中転送と連携し、回線で使用されるコールの最大数を決定します。たとえば、[ コール最大数 (Maximum Number of Calls)] に 50、[ ビジートリガー (Busy Trigger)] に 40 をそれぞれ設定した場合、41 番目の着信コールは、ビジューのために拒否されます (話中転送が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線がビジューになった後に着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイントの [ コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と併用します。デフォルト値は 4500 コールです。</p> <p><b>ヒント</b> シェアドライン アピアランスを持つデバイスに対して、この設定がどのように機能するかを確認するには、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「<a href="#">シェアドライン アピアランス</a>」を参照してください。</p>
<b>[ デバイス&lt;デバイス名&gt;における、転送呼の情報表示 (Forwarded Call Information Display on Device [device name]) ]</b>	
<b>(注)</b> これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合だけです。	
[ 発信者名 (Caller Name)]	このチェックボックスをオンにすると、自動転送時に発信者名が表示されます。
[ 発信者番号 (Caller Number)]	このチェックボックスをオンにすると、自動転送時に発信者 ID が表示されます。
[ 転送元番号 (Redirected Number)]	このチェックボックスをオンにすると、自動転送時にリダイレクトされた番号が表示されます。

表 43-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ダイヤル番号 (Dialed Number)]	このチェックボックスをオンにすると、自動転送時に最初にダイヤルされた番号が表示されます。
<b>[回線に関連付けられているユーザ (Users Associated with Line)]</b>	
<b>(注)</b> この情報が表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合だけです。	
(ユーザ名)	<p>このペインには、この回線に関連付けられたエンド ユーザが表示されます。</p> <p>この回線にエンド ユーザを関連付けるには、[エンドユーザの関連付け (Associate End Users)] ボタンをクリックします。[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。ポップアップ ウィンドウで、検索機能を使用し、この回線に関連付けるエンド ユーザを検索します。エンド ユーザの検索の詳細については、「<a href="#">エンド ユーザの設定値</a>」(P.88-1) を参照してください。この回線に関連付けるエンド ユーザが見つかったら、[選択項目の追加 (Add Selected)] ボタンをクリックします。選択されたエンド ユーザが、この回線の [回線に関連付けられているユーザ (Users Associated with Line)] ペインに追加されます。</p> <p>関連付けられたエンド ユーザごとに、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [氏名 (Full Name)] : この列には、関連付けられたエンド ユーザの姓と名のエントリが表示されます。</li> <li>• [ユーザ ID (User ID)] : この列には、関連付けられたエンド ユーザのユーザ ID が表示されます。</li> <li>• [権限 (Permission)] : [i] ボタンをクリックすると、このエンド ユーザのユーザ特権情報が表示されます。</li> </ul> <p>この回線に少なくとも 1 名のエンド ユーザが関連付けられている場合は、次のボタンが追加表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [すべてを選択 (Select All)] : このボタンをクリックすると、この回線に関連付けられたすべてのエンド ユーザが選択されます。</li> <li>• [すべてをクリア (Clear All)] : このボタンをクリックすると、この回線に関連付けられたすべてのエンド ユーザが選択解除されます。</li> <li>• [選択項目の削除 (Delete Selected)] : この回線との関連付けを解除するエンド ユーザをすべて選択した後に、このボタンをクリックします。その結果、エンド ユーザとこの回線との関連付けが解除されます。ただし、エンド ユーザのレコードは削除されません。</li> </ul>

**[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]**

Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウン リストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、目的のコーリングサーチスペースを検索します。



**(注)** リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。

**追加情報**

「[関連項目](#)」(P.43-30) を参照してください。

## 電話番号と影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスと設定を変更した電話番号を同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

### 手順

- 
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] の順に選択します。
- [電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件に一致する電話番号がウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 該当するデバイスを同期させる電話番号をクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
- [設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。



**(注)** デバイスの再起動が必要な場合に、ゲートウェイ上のコールがシステムによって終了される場合があります。

- 
- ステップ 8** [OK] をクリックします。
- 

### 追加情報

「関連項目」(P.43-30) を参照してください。

## PLAR の設定

専用回線自動切断 (PLAR) を設定することができるため、ユーザが電話の受話器を外すと（または、[発信] ソフトキーまたは回線キーを押すと）、電話機はすぐに事前に設定された番号にダイヤルします。電話機のユーザは PLAR に設定されている回線で別の番号をダイヤルできません。

PLAR は、割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込みなどの機能と連携します。ある機能とともに PLAR を使用する場合、機能のマニュアルに記述されているように機能を設定して、PLAR の接続先 (PLAR 専用の電話番号) を設定する必要があります。

次の例では、割り込みに対応していて、SCCP および SIP を実行している電話機で PLAR 機能を有効にする方法について説明します。A および A' は割り込み設定が行われているシェアライン デバイスを表し、B1 は PLAR の接続先用の電話番号を表します。A または A' から PLAR 機能を有効にするには、次の例を参照してください。



## ヒント

ステップ 1 からステップ 4 は、SCCP を実行している電話機に PLAR を設定する場合に適用されます。SIP を実行している電話機については、ステップ 1 からステップ 6 を実行する必要があります。PLAR を設定する前に、お使いの電話機のモデルが PLAR をサポートしていることを確認してください。電話機が PLAR をサポートしているかどうかを調べるには、お使いの電話機のモデルとこのリリースの Cisco Unified Communications Manager をサポートする『Cisco Unified IP Phone Administration Guide』を参照してください。

## PLAR の設定例

- ステップ 1** パーティション (たとえば P1) およびコーリング サーチ スペース (たとえば CSS1) を作成します。CSS1 には P1 が含まれます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] または [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択します)。
- ステップ 2** コーリング サーチ スペース CSS1 およびパーティション P1 を含む、ヌル (空) のトランスレーション パターン (たとえば TP1) を作成します。このヌル (空) のパターンで、[着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transform Mask)] フィールドに PLAR の接続先である B1 の電話番号を入力していることを確認します (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [トランスレーションパターン (Translation Pattern)] を選択します)。
- ステップ 3** コーリング サーチ スペース CS1 を A または A' のいずれかに割り当てます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します)。
- ステップ 4** PLAR の接続先である B1 の電話番号にパーティション P1 を割り当てます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します)。
- ステップ 5** SIP を実行している電話機については、SIP ダイアル ルールを作成します (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイアルルール (Dial Rules)] > [SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] を選択します。[7940\_7960\_OTHER] を選択します。パターンの名前を入力します。たとえば、「PLAR1」などです。[保存 (Save)] をクリックしてから [PLAR の追加 (Add Plar)] をクリックします。[保存 (Save)] をクリックします)。
- ステップ 6** SIP を実行している電話機については、PLAR 用に作成した SIP ダイアル ルール設定を電話機 (この例では A および A') に割り当てます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] ドロップダウン リスト ボックスから SIP ダイアル ルール設定を選択します)。

## 追加情報

「関連項目」(P.43-30) を参照してください。

# 電話機からの電話番号の削除

特定の電話機から電話番号 (DN) を削除する手順は、次のとおりです。

## 始める前に

使用されている電話番号を削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。電話番号を使用している回線グループを検索するには、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス \(P.A-2\)](#)」を参照してください。

電話機から電話番号を削除しても、Cisco Unified Communications Manager 内にはその番号がまだ残っています。電話機に関連付けられている電話番号のリストを表示するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] メニュー オプションを使用します。詳細については、「[割り当てられていない電話番号の削除 \(P.46-3\)](#)」を参照してください。

## 手順

- 
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。  
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。  
検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
  - ステップ 3** 削除する電話番号を含むデバイス名を選択します。  
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 4** 左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、削除する回線を選択します。  
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 5** [デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインで、この電話番号を削除する電話機のデバイス名を選択します。
  - ステップ 6** [デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインの下にある下矢印をクリックします。  
電話機の名前が [デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)] ペインに移動します。
  - ステップ 7** [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] ボタンをクリックします。  
その電話番号が削除された状態で、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。変更内容が電話機に自動的に適用されます。ただし、[リセット (Reset)] をクリックすることもできます。詳細については、「[電話機のリセットのヒント \(P.67-4\)](#)」を参照してください。
- 

## 追加情報

「[関連項目 \(P.43-30\)](#)」を参照してください。

# Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [Cisco Unity Voice Mailbox の作成] リンクを使用すると、管理者は Cisco Unified Communications Manager の管理ページから個々に Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成できます。Cisco Unified Communications Manager を Cisco Unity Connection と統合している場合は、このリンクを使用して Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成できます。

ボイスメールボックスおよびその他の Cisco Unity Connection の設定を Cisco Unity Connection の管理ページで設定するには、該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。追加しようとするユーザに対する適切なテンプレートを定義し、Class of Service (COS; サービス クラス) を選択したことを確認してください。



(注)

エンドユーザの Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成する前に、エンドユーザの電話デバイスへの関連付けとプライマリ内線を設定し、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection の間の SCCP 統合を完了させておく必要があります。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection*』または『*Cisco Unified Communications Manager SIP Trunk Integration Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

## 始める前に

- ボイス メッセージ サービス用に Cisco Unified Communications Manager を設定します。『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト](#)」を参照してください。
- Cisco Unity Connection サーバを設定します。該当する『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。
- Cisco Unity Connection と連動するために、Cisco Unity Connection で AXL 接続を作成します (『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』の「Managing the Phone System Integrations」を参照)。
- Cisco RIS Data Collector サービスがアクティブになっていることを確認します。『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。
- [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] が設定され、パイロット番号を含んでいること、または [なし (None)] に設定されていることを確認します。[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] が [ボイスメールなし (No Voice Mail)] に設定されている場合、[Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクは表示されません。
- 追加しようとするユーザに対する適切なテンプレートを定義し、サービス クラス (COS) を選択したことを確認してください。Cisco Unity Connection ユーザの場合は、『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。



(注)

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウにも [Cisco Unity Voice Mailbox の作成 (Create Cisco Unity Voice Mailbox)] リンクがあります。

## 手順

### ステップ 1

コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] の順に選択し、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

- ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 43-1 を参照)。
- ステップ 3** ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Unity Voice Mailbox の作成 (Create Cisco Unity Voice Mailbox)] リンクを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- [Cisco Unity ユーザの追加 (Add Cisco Unity User)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** [アプリケーションサーバ (Application Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unity Connection メールボックスを作成する Cisco Unity Connection サーバを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [ユーザテンプレート (Subscriber Template)] ドロップダウン リスト ボックスから、使用する登録者テンプレートを選択します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- Cisco Unity Connection メールボックスが作成されます。
- これで、Cisco Unity Connection の管理に、作成したメールボックスを表示できます。該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。
- 

### 追加情報

「関連項目」(P.43-30) を参照してください。

## 関連項目

- 「電話番号の設定」(P.43-1)
- 「電話番号の設定値」(P.43-1)
- 「電話番号と影響を受けるデバイスとの同期化」(P.43-26)
- 「PLAR の設定」(P.43-26)
- 「電話機からの電話番号の削除」(P.43-28)
- 「Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成」(P.43-29)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話番号の概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話番号の設定チェックリスト」
- 「回線グループの設定」(P.34-1)
- 「割り当てられていない電話番号の削除」(P.46-3)
- 「ゲートウェイの設定」(P.66-1)
- 「電話機のリセットのヒント」(P.67-4)
- 「電話機の設定値」(P.67-3)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト」
- 『User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection』
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」